学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学〈グローバル・スタンダード〉をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的な考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」「文化遺産学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自ら問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。	自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。	フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。	フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
41876	考古学・文化資源学概説A	プログラムを構成する諸分野の学問の基礎的知識と方法論を学ぶ。	1年			＊		◎				
41877	考古学・文化資源学概説B	プログラムを構成する諸分野の学問の発展的な知識と方法論を学ぶ。	1年				＊	◎				
21203	比較文化学概説 A	南アジアの仏教美術を理解するとともに、人間の文化的所産としての宗教を、幅広い視野から考察することをめざす。あわせて、仏教の基本的な考え方を身につける。	2年			＊		◎				
21204	比較文化学概説 B	日本の仏教建築、神社建築に見られる伝統的な建築技術の変遷を通して日本文化の形成とその発展の過程を理解する。	2年			＊		◎				
21207	文化遺産学概説A	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2年				＊	◎				
21208	文化遺産学概説B	いわゆる有形・無形の別を問わず、また、日本国内ばかりではなく世界各地の事例についても、文化遺産全般に対する関心を高め、併せて基礎的な知識を習得する。	2年				＊	◎				
21209	考古学概説A	日本考古学の様々な分析法を学ぶ。それにより先史から近代までの日本の歴史を考古学的に復元する能力を習得する。	2年	＊				◎		○	○	
21210	考古学概説B	様々な埋蔵文化財の分析法を学ぶ。埋蔵文化財の発見、調査、報告、保存、利活用の手続きを理解する。	2年	＊				◎		○	○	
41878	文化資源学の方法論	文化資源学を構成するさまざまな分野の一の具体的な方法論について、体系的に学ぶ。	2年	＊				◎	◎	○	○	
417879	考古学の方法論	考古学的調査により得た資料をどのように整理・分析し、新たな知見を得るのかを学ぶ。	2年		＊			◎	◎	○	○	
4188	プログラム基礎実習	調査テーマの選び方、聞き取り、参与観察、音声・画像・ビデオ・データの記録・整理・活用、文字記録のつけ方と整理・分析法、仮説の形成とさたえ方、報告書の構成法などを実習を通して身につける。	2年			＊	＊		◎	◎	◎	
41463	比較文化論	世界の歴史的建造物を通して、建築が文化の表現であ環ことを理解し、民族性、社会性などを読み取ることができるようにする。	2、3年			＊		◎		○		
41464	仏教文化論	インドで起こり、日本を含むアジア各地に伝播した仏教が、それぞれの地域と時代でどのような文化を生み出したかを学ぶ。	2、3年	＊				◎		○		
41465	南アジア文化論	仏教石窟、ヒンドゥー教寺院を通して、建築文化の融合の様相を把握できるようにする。	2、3年				＊	◎		○		
41466	日本の思想と宗教	仏教思想を中心に日本の思想と宗教に関する基礎的な知識と分析方法を習得する。	2、3年		＊			◎		○		
41863	文化交流史	異文化の接触、交流、受容と変容などの具体的なあり方を学び、人類が生み出してきた文化を交流史という視点から理解する。	2、3年	＊				◎		○		
41864	宗教文化論	宗教学の基本的な考え方と諸理論を学び、文化現象として宗教を理解するとともに、宗教が人びとに与えた影響を知る。	2、3年		＊			◎		○		
41865	建築史A	アジア及び日本国内の主要な歴史的建築物を通して、建築を通史的に理解す	2、3年			＊		◎		○		
41866	建築史B	欧米の主要な歴史的建築物を通して、建築を通史的に理解する。	2、3年				＊	◎		○		
41470	東アジア文化遺産学A	東アジアにおける文化遺産学研究の現状と課題について幅広い知識を身に付ける。	2、3年		＊			◎				
41471	東アジア文化遺産学B	文化遺産を理解するために必須な歴史的知識を整理し、その上で理論と方法についても理解を深める。事例として東アジアの文化遺産を取り上げる。	2、3年				＊	◎				
41470	オリエント文化遺産学A	オリエント地方の文化遺産について基礎的な知識を習得する。	2、3年			＊		◎	○			
41471	オリエント文化遺産学B	オリエント地方の文化遺産研究の現状を理解し、文化遺産の保存や活用について理解を深める。	2、3年				＊	◎	○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2.5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1.2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3.4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自己問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに選行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
41472	西洋美術史A	古典古代の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年	*				◎	○			
41473	西洋美術史B	キリスト教美術の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年		*			◎	○			
41882	西洋美術史C	中世からルネサンスに移行する時期の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年			*		◎	○			
41883	西洋美術史D	ルネサンス美術の様式を把握するとともに人間と美術の関係を歴史的背景の中で考察できるようにする。	2年				*	◎	○			
41869	比較美術史A	中世キリスト教美術を典拠となるテキストや他の様式の作品と比較して、多角的な視点から理解する。	2、3年	*				◎		○		
41870	比較美術史B	中世キリスト教美術を古今東西の作品と比較して、問題意識を持って作品に対峙し、多角的な視点から理解	2、3年		*			◎		○		
41883	地域考古学A	諸地域の考古学研究の諸問題について通時的に学び、考察する力を養う。	2～4	*				◎	○			
41884	地域考古学B	諸地域の考古学研究の諸問題についてテーマ別に学び、考察する力を養う。	2～4			*		◎	○			
41885	社会考古学A	人類社会の複雑化、人間集団の関係、権力、社会組織の規模と性格といった社会的側面を中心とする考古学的研究の基礎について学ぶ。	2～4		*			◎	○			
41886	社会考古学B	人類社会の複雑化、人間集団の関係、権力、社会組織の規模と性格といった社会的側面を中心とする考古学的研究の諸事例について検討し、考察する力を養う。	2～4				*	◎	○			
41887	比較考古学A	基礎的な考古学的な方法により、様々な文化を比較する方法を学ぶ。	2～4	*				◎				
41888	比較考古学B	自然科学的な考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	2～4		*			◎				
41889	考古科学A	考古学で実践されている多様な自然科学的研究手法の基礎を学ぶ						◎	○			
41891	考古科学B	多様な自然科学的研究手法の具体的な事例を学ぶ。						◎	○			
41484	比較文化論演習A	仏教に関する文献の読解力と、図像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。とくに先行研究についての批判的な評価、作品のもつ問題点とそれに関する分析方法を扱う。	2～4			*			◎	○	○	
41485	比較文化論演習B	仏教に関する文献の読解力と、図像作品を解釈する方法、さらに発表の技法を身につける。とくに、研究対象についての情報収集、分析、考察を体系的に行う方法を学ぶ。	2～4				*		◎	○	○	
41486	南アジア文化論演習A	インドの文化を表象する彫刻、建築の基本的な文献を読み、作品の主題と意匠を文化的背景の中で理解できるようにする。	2～4	*					◎	○	○	
41487	南アジア文化論演習B	文献講読を通して建築用語になじみ、建築意匠の特質を理解できるようにする。	2～4		*				◎	○	○	
41871	文化交流史演習A	文化史、比較文化学の基本的な文献を読み、文化研究の理論と方法を修得する。おもに東洋美術に関する文献を扱う。	2～4			*			◎	○	○	
41872	文化交流史演習B	文化史、比較文化学の基本的な文献を読み、文化研究の理論と方法を修得する。おもに仏教の実践・儀礼に関する文献を扱う。	2～4				*		◎	○	○	
41873	建築史演習A	東洋建築史の基本的な文献を読み、建築史の理論と方法を修得する。	2～4	*					◎	○	○	
41874	建築史演習B	ヨーロッパ建築史の基本的な文献を読み、建築史の理論と方法を修得する。	2～4		*				◎	○	○	
41893	美術史演習A	美術史学とは何か、美術史の方法論（作品記述、比較、様式論、図像学、図像解釈学）の基礎を身につけ	2～3	*					◎	○	○	
41894	美術史演習B	キリスト教図像学を中心に、キリスト教美術読解の方法を身につける。	2～3		*				◎	○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル・スタンダード>をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2,5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的な方法や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自ら問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに選択することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
41494	東アジア文化遺産学演習A	東アジアにおける文化遺産に関する先行研究や批評を題材として、文化遺産を学術的に考察していくときに不可欠な読解力や思考力、表現力を身に付ける。	2年		*				◎	○	○	
41495	東アジア文化遺産学演習B	東アジアにおける文化遺産に関するデータや情報を自ら集め、それを用いて文化遺産を学術的に考察するための創造的技法を身に付ける。	2年				*		◎	○	○	
41895	オリエント考古学演習A	オリエント地域の歴史・文化についてまに考古資料の分析に立脚しつつ、文字史料、図像資料も駆使して総合的に考察する方法の基礎知識を習得する。	2年			*			◎	○	○	
41596	オリエント考古学演習B	オリエント地域の歴史・文化についてまに考古資料の分析に立脚しつつ、文字史料、図像資料も駆使して総合的に考察する方法の事例について検討する。	2年				*		◎	○	○	
41897	地域考古学演習A	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学ぶ。	2～4			*			◎	◎		
41898	地域考古学演習B	地域社会について考古学研究を実施できるようになる。。	2～4				*		◎	◎		
42701	社会考古学演習A	考古学的分析法を通して、社会の階層化や複雑化を復元する方法を学ぶ。	2～4			*			◎	◎		
42702	社会考古学演習B	考古学的分析法を通して、異文化理解に応用できるようになる。	2～4				*		◎	◎		
42703	比較考古学演習A	考古学的分析法を通して、東アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2～4			*			◎	○		
42704	比較考古学演習B	考古学的分析法を通して、アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2～4	*						○	◎	
42705	考古科学演習A	考古遺物の放射性炭素年代測定、元素分析、同位体分析で得られたデータを解析し、結果について考察できるようになる。	2～4	*					◎	○	○	
42706	考古科学演習B	生物遺体の化学分析、生物学的解析で得られたデータを解析し、結果について考察できるようになる。	2～4		*				◎	○	○	
41845	比較文化学実習A	仏教儀礼、仏教美術、建築等の調査を通して、比較文化学の基礎的な手法を身につける。	3年	*					◎	○	○	
41846	比較文化学実習B	比較文化学の基礎的な手法とともに、写真撮影の基本的な技術、デジタルデータの処理・整理・保存方法、およびそれらに適したソフトウェアの活用法などを身につける。	3年		*				◎	○	○	
41847	比較文化学実習C	フィールドワークを含む情報収集を実際に立案し、調査計画にもとづき実施する。収集したデータの分析とそこからの理論構築にいたるプロセスを修得する。	3年			*			◎	○	○	
41848	比較文化学実習D	調査・研究のアウトプットに重点を置き、論文としてまとめるための基本的な技術や、文章の表現方法、視覚的イメージの活用など、他者が理解するためにどのような工夫がなされるかを、実際の論文作成を通して修得する。	3年				*		◎	○	○	
41853	文化遺産学実習A	フィールドワークを通じて文化遺産学分野の調査・研究に必要な基本的スキル（記録、マッピング、写真撮影、各種画像処理、科学的分析方法）を身につける。	3年	*					◎	○	○	
41854	文化遺産学実習B	問題を設定してフィールドワークを実施し、文化遺産学分野の調査・研究に必要なスキル（記録、マッピング、写真撮影、各種画像処理、科学的分析方法）の活用法を身につける。	3年		*				◎	○	○	
41855	文化遺産学実習C	フィールドワークを通じて文化遺産学分野の調査・研究に必要不可欠なデータの収集方法と分析方法を身につける。	3年			*			◎	○	○	
41856	文化遺産学実習D	フィールドワークによって収集・分析したデータを、設定した問題に即して論理的に考察し、自らの思考を明晰に論じるすべを身につける。	3年				*		◎	○	○	
42707	考古学実習A	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。レベルの習得に重点を置く。	3,4年	*					◎	○	○	
72708	考古学実習B	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。平板測量の習得に重点を置く。	3,4年		*				◎	○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学〈グローバル・スタンダード〉をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2.5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1.2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3.4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的な考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自ら問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。	自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。	フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。	フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。	学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
42709	考古学実習C	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。トータル・ステーションの習得に重点を置く。	3,4年			*			◎	○	○	
42710	考古学実習D	考古学にとって最も基本的な作業である地形測量に係わる基礎的技術を修得する。写真測量の理解に重点を置く。	3,4年				*		◎	○	○	
42711	考古学実習1	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。土器の実測の習得に重点を置く。	2～4年	*					◎	○	○	
42712	考古学実習2	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。石器の実測の習得に重点を置く。	2～4年		*				◎	○	○	
42713	考古学実習3	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。拓本の習得に重点を置く。	2～4年			*			◎	○	○	
42714	考古学実習4	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。写真撮影の習得に重点を置く。	2～4年				*		◎	○	○	
42715	博物館実習A	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。特に本授業では、展示プランを作成する。	3、4年	*				○		◎	◎	
42716	博物館実習B	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。特に本授業では、実技を習得する。	3、4年		*			○		◎	◎	
42717	博物館実習C	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。特に本授業では、展示活動を体験する。	3、4年			*		○		◎	◎	
42717	博物館実習D	実際に博物館で実習を行うことで、学芸員の職務内容および博物館の社会的役割について認識と理解を深め、かつ自分自身が学芸員としての適性を有しているかを判断する機会とする。特に、本授業では教育普及活動を実践する。	3、4年				*	○		◎	◎	
42718	博物館概論A	博物館の基本的理念とその活動の実態を学ぶ。	1年	*				◎				
42719	博物館概論B	博物館学芸員が果たすべき役割と基本的知識を身につける。	1年		*			◎				
42720	博物館資料論A	博物館資料の取り扱いに関する基礎的知識を学ぶ。	2、3年		*			○		◎		
42721	博物館資料論B	博物館資料の概要と種類、収集の目的と方法、整理と登録の実際などを学ぶ。	2、3年			*		○		◎		
42722	博物館経営論A	博物館の多様なあり方について理解し、それぞれの組織・制度や運営方法を把握する。	2、3年	*				○		◎		
42723	博物館経営論B	博物館学芸員として円滑に博物館を経営する方法を学ぶ。	2、3年		*			○		◎		
42724	博物館資料保存論A	博物館資料の保存に関する基本的な理念、適切に資料を保存するとと関係すべき基本的な知識を学ぶ。	2、3年		*			◎	○	○		
42725	博物館資料保存論B	博物館資料の保存修復について具体的な各分野の方法について認識を深める。	2、3年		*			◎	○	○		
42726	博物館展示論A	様々な種類の博物館資料を安全かつ効果的に設置する技術を習得する。	2、3年	*						◎	○	
42727	博物館展示論B	博物館の映像・音声資料などを活用する方法についても学ぶ。	2、3年		*					◎	○	
42728	博物館教育論A	博物館が担う教育的側面についての理論と方法を学ぶ。	2、3年			*				○	◎	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル・スタンダード>をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2.5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1,2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3,4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自己問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
42729	博物館教育論B	博物館利用者の多様なニーズに応えるための方策について理解を深める。	2、3年				*			○	◎	
42730	博物館情報・メディア論A	ICT社会における情報とメディアの取り扱いに関して必須の事項を学び、博物館情報の収集・発信・共有するための基本的な知識と技術を身に付ける。	2、3年			*				○	◎	
42731	博物館情報・メディア論B	国内外の博物館における情報とメディアの取扱や先駆的な活動の事例について学び、博物館の可能性や社会的な意義をより高めていくための応用的思考法や実践的姿勢を学ぶ。	2、3年				*			○	◎	
42732	生涯学習論A	社会の諸領域における教育や学びという営みと及び生涯にわたる学びたる生涯学習の意義について学ぶとともに生涯学習に係る法制度についての理解を深める。	2、3年			*		◎				
42733	生涯学習論B	生涯にわたる学習活動を支援するための公民館、博物館及び図書館等の施設や職員の在り方並びに学びの成果を活かしたボランティア活動や地域づくりについての理解を深める。	2、3年				*	◎				
31005	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*					◎	○	○	
31006	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定の仕方、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。	4		*				◎	○	○	
31007	卒業論文演習C	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・具体的な研究課題と研究計画を設定し、これを遂行するために調査・資料収集・文献読解を行い、関連する技法、考え方を身につける。	4		*				◎	○	○	
31008	卒業論文演習D	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・調査・資料収集・文献読解を通じて得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4				*		◎	○	○	
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*		*		◎	◎	◎	
11057	人文学序説A	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・ラボラトリ（実験）、サーベイ（調査と分析）という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)		○				○
11058	人文学序説B	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・フィールドワーク（野外実習・調査）という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)		○		○		○
11059	人文学序説C	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・哲学・歴史学分野における具体的な研究実践やテキスト（文献）の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*		○		○	○	○
11060	人文学序説D	・人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。 ・言語や文学に関するテキスト（文献）の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*				○		○
11063	現代社会・人間学入門	・グローバル化のプロセスがもつ意味を理解する。 ・グローバル化の影響を理解する。 ・人文社会科学の諸分野の学問的方法や固有の領域について理解する。	1～4		*							○
11064	哲学の始源	・西洋哲学・倫理学の起源を歴史的に学び、その特質を理解する。	1～4				(*)					○
11065	社会情報学A	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を学ぶ。 ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを分析的に理解する。	1～4	*								○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学〈グローバル・スタンダード〉をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2.5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP（カリキュラム編成方針）

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1.2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに2年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3.4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的な考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自ら問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学修目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
11066	社会情報学B	・人間行動や社会集団の変化を、社会情報という視点によって把握する方法を理解する ・具体的な社会変動のプロセスやメカニズムを多元的に考察できるようになる。	1～4		*							○
11067	ジェンダーと社会A	・現代社会におけるジェンダー概念の意義と関連する諸課題について学ぶ。 ・ジェンダーの視点から諸課題の構造や課題解決のアプローチについて考察できるようになる。	1～4			*						○
11068	ジェンダーと社会B	・多様な性と関連する諸課題について学ぶ。 ・ダイバーシティとインクルージョン（社会的包摂）の視点から分析・課題解決の方法について理解する。	1～4				*					○
42621	知覚・認知心理学A	感覚知覚に関する諸現象や基礎知識を学び、その仕組みと心理過程における役割を理解する	2~4									○
42622	知覚・認知心理学B	認知に関する諸現象や基礎知識を学び、認知過程と心理過程の特性を理解す	2~4									○
42623	学習・言語心理学A	学習心理学の基本的な現象、研究法、および段階理論について基礎知識を習得し、現実場面に応用できるようになる。	2~4									○
42624	学習・言語心理学B	学習心理学の複雑な現象と説明理論について理解するとともに、言語心理学の基本的な現象、研究法、および言語障害について基礎知識を習得する。	2~4									○
42625	感情・人格心理学A	人格心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。	2~4									○
42626	感情・人格心理学B	感情心理学に関する理論や実証的な研究が理解できるようになる。	2~4									○
41475	古代文明論	世界各地の古代文明の成立・発展・衰退の過程について、考古資料、建築資料、図像資料、文字資料などを駆使して研究する方法	2年		*			◎				○
11069	北陸の考古学	北陸地方の主要な史跡について学び、考古学的に北陸地方の歴史を復元できるようになる。	2年		*			◎				○
11070	宗教芸術論	おもに、キリスト教・仏教の芸術について、それぞれの基本的な知識と、両者の差異、それを生み出す文化的・社会的背景に関する知識を修得する。	2年		*			◎				○
11071	イメージを読み解く	人類がこれまでに生み出したさまざまなイメージを手がかりに、人間の持つ普遍性や、地域や時代に応じた固有の文化のあり方を修得	2年	*				◎				○
11072	**グローバルヒストリー**	一国史の枠を越えた、グローバルな視点で歴史を考察する力を養う。	2	*				○				○
11078	歴史学と現在1	戦後日本（敗戦直後から高度経済成長期まで）の史学史を学ぶことを通して、歴史学の存在意義を理解する。	1					○				○
11079	歴史学と現在2	戦後日本（高度経済成長期以降）の史学史を学ぶことを通して、歴史学の存在意義を理解する。	1					○				○
41976	日本語学講義1	・日本語の言語構造について、個別の問題の探求を通して、その基本的特徴を理解する。 ・言語の現象についての基本的な理解を身に付ける。	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)					○
11073	日本の物語と語り物	・日本文学史を貫流する問題や同時代の広がりの中でジャンルを横断して看取される共通点を取り上げて追跡・追求することができ	2,3,4	(*)	(*)	*	(*)					○
11074	日本文学の近代	・近代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。日本近代の問題について知見を深めるこ	2,3,4	*	(*)	(*)	(*)					○
11075	日本文学とメディア	・現代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。社会の問題について知見を深めることが	2,3,4			*						○
11076	中国の言語文化A	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2			*						○
11077	中国の言語文化B	中国の言語と文化について理解を深め、中国研究の方法論を習得する。	2				*					○
21401	言語研究入門	語学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4	*								○
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4		*							○
21416	比較文学入門	比較文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2～4			*						○

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
プログラム名	考古学・文化資源学プログラム

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

KUGS（金沢大学<グローバル>スタンダード）をふまえ、人文学類では次に挙げるすぐれた能力と資質を以て新たな情報や価値を創造し社会に貢献できる学生に学士（文学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と課題発見能力
人間性と社会性に富む豊かな教養を有し、常に知的好奇心を持ち続け、人間や社会、環境をめぐる諸課題を自ら発見することができる。（☞KUGS1.5に対応）
2. 社会的応用性を備えた専門性
各プログラムにおける専門的な学問内容と、文献読解にとどまらない固有の方法を、系統立てて理解・習得し説明できるとともに、それを活用して現代社会における多様な課題の具体的解決に忍耐強く意欲的に取り組んでいくことができる。（☞KUGS1.2.5に対応）
3. 適切かつ主体的な情報収集と的確な自己表現の能力
多様な情報、文献、資料、史料の中から必要なものを適切かつ主体的に収集、分析、統合し、自らの見解や価値観を形成するとともに、明晰な論理構成能力と高い文章表現力で自己を説得的かつ的確に表現することができる。（☞KUGS3に対応）
4. 多面的視野による他者理解と柔軟なコミュニケーション能力
多面的視野を持って、異なる文化や伝統も含んだ他者の多様な価値観や見解に対する高い関心と深い理解を有しており、日本語そして外国語を用いて異論を有する他者とも柔軟かつ適切に意思の疎通を図ることができる。（☞KUGS4に対応）

プログラムのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

考古学・文化資源学プログラムでは、人間の文化・歴史・言語・思想、創造・行動・思考について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする考古学および文化資源学の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような考古学・文化資源学プログラムの学修成果を上げた者とする。

学類・プログラム のCP(カリキュラム編成方針)

DPにかかげる能力と資質の育成を実現するために、以下のような教育課程の編成と実施の方針を策定する。
1. 学士課程4年間を通じて、KUGSに対応したGS科目や導入科目を体系的に履修して、学士課程教育の基盤となる幅広い豊かな教養を身につける。またGS言語科目（英語）のみならず、必ず初習言語をひとつ以上選択することで、外国語コミュニケーション能力、異文化への関心と理解力を養う。（☞DP1）
2. 1年次より「人間社会学域GS科目」と「人文学基盤科目」を履修し、前者では大学・学問論、ジェンダー論、文化概説、文学概論、異文化理解、法政基礎論、地域創造学、金融リテラシー等、人文科学、社会科学の基本的問題や方法論を、後者では人文諸学の基本研究内容、研究手法、そして基礎知識をそれぞれ幅広く学修し、人間社会学域および人文学類での専門教育における基盤的教養を身につける。（☞DP1.2）
3. 英語については、1年次でのGS言語科目の履修を踏まえてさらに年次で学域GS言語科目、また、各プログラムの専門科目における英語演習を履修することで、継続的に英語運用能力の向上を図る。（☞DP4）
4. 専門科目は、講義系科目と演習・実習・実験系科目に大別されるが、いずれのプログラムの講義・演習等でも、個人あるいはグループ単位での口頭発表、報告書（レポート）作成、討論、調査など学生の能動的・主体的な授業参加を求めるとともに双方向的な授業を進めることで、専門的知識の獲得に加えて、自己表現、他者理解、コミュニケーション等の能力を養っている。（☞DP3.4）
5. 4年次には全プログラムにおいて卒業論文演習を通じて卒業論文を作成する。卒業論文は、共通教育と専門教育の集大成となるもので、1年次から4年次まで習得してきた基盤的教養と専門教育における学修成果を総合しながら、学生自らが課題やテーマを設定し、データ・資料・史料等を収集、分析、読解し、自己の見解を明晰かつ論理的に表現していく能力の養成ができたかどうかを最終的に確認するものである。あわせて口頭試問では、自己の所説の説明に加えて批評・批判・異論に耳を傾けこれに柔軟に対応できる能力も評価される。
【プログラムのCP】
1年次には、考古学・文化資源学の基礎的知識や研究方法の修得のため、「考古学・文化資源学概説」を中心に学ぶ。2年次には、「文化資源学の方法論」「考古学の方法論」において、それぞれの分野の基本的技術を学ぶ。考古学・比較文化学、文化遺産学の各研究領域における基本的な考え方や基礎知識を修得するため、「考古学概説」「比較文化学概説」「文化遺産学概説」を履修する。さらに「プログラム基礎実習」で、自己問題を設定し、その解明のためのプロセスを立案し、実施に移し、最終的な報告にまとめる。3年次には、専門的な知識や方法論、およびフィールドワークでのスキルを身につけるための豊富な実習・演習科目から一定の専門性をもった選択によって、各自が自分の関心に応じた専門領域を絞り込むとともに、調査レポート作成や研究発表のプレゼンテーションの力をつける。4年次には、自ら決定した研究テーマに応じ、「卒業論文演習A・B・C・D」を通してそれまでに身につけた知識とスキルを生かした研究に取り組む

プログラムの学習成果（◎=学習成果を上げるために最修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために最修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために最修することが求められる科目）

人類の文化や社会に関するさまざまな問題に、総合的・学際的な視野からアプローチすることができる。

自ら研究課題を設定し、世界各地を舞台にフィールドワークをシステマティックに遂行することができる。

フィールドワークで得られた情報を論理的に整理・分析・考察し、説得力ある結論を導くことができる。

フィールドワークの研究成果を、口頭や文書でわかりやすく説明・報告することができる。

学問諸分野の知の集積に触れ、事象に対する多様な考え方を知るとともに、人文学に関わる複眼的な見方を涵養する。

プログラムのカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4					
21417	言語認知科学入門	・認知科学における言語の位置付けを理解する。 ・認知科学を学ぶ上で基礎となる心理学の知識を学ぶ。	2～4			*						○

※ （*）は年度によって開講時期が異なることを示します。